

「大変革期にある自動車産業」

日時：2018年11月9日（金）15:30～17:00

場所：同志社大学 今出川校地 寒梅館地下1階 会議室地A

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/muromachi.html>

講師：小平 信因 氏

公益財団法人トヨタ財団会長、元資源エネルギー庁長官、
元トヨタ自動車副社長

内燃機関を使った自動車の生産・利用が本格化してから100年余り。現在、自動車産業は「100年に一度」と言われる大変革期を迎えています。これらの変革は、CASE(Connected—つながるクルマ、Autonomous—自動運転、Shared—共同利用・共有、Electric—電動化)とも言われますが、講演においては、経済全体において自動車産業が占める位置を概観した上で、CASEに焦点を当てつつ、自動車産業を取り巻くグローバルな環境がどのように変化し、自動車産業がそれらにどう対応しようとしているのか、対応を進めていく上でどのような課題があるのか、各国政府はどのような政策等を実施し、また、講じようとしているのか、等に関して紹介します。

講師プロフィール：

1972年 東京大学経済学部卒業 通商産業省入省
1976年 ケンブリッジ大学留学（修士）
2001年 経済産業省 製造産業局次長
2002年 内閣府政策統括官
2004年 資源エネルギー庁長官
2008年 トヨタ自動車顧問
2012年 トヨタ自動車副社長
2016年 トヨタ財団会長



通商産業省—経済産業省において様々な分野の行政を経験。中でも、日米交渉を中心に多くの通商問題に対応。また、自動車産業を始めとする広範な産業に関連する幅広い政策の立案・実施に取り組むとともに、石油を始めとするエネルギー問題等を担当。トヨタ自動車においては、IT・ITS、渉外・広報、経理本部等を担当。

参加費無料 参加申込は下記URLの参加申込みフォームよりお願い致します。

<https://www.doshisha.ac.jp/event/2018/0918/event-detail-3067.html>